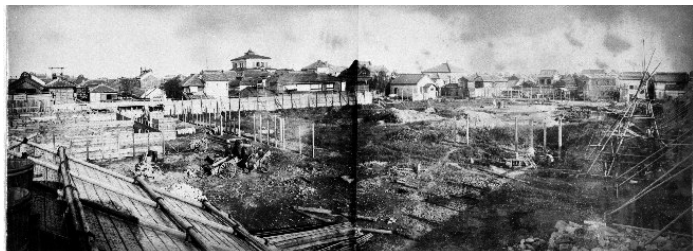


日本橋の風景 — 明治期 にちぎんの建築記録写真 から —

日本銀行は1896(明治29)年に現在の日本橋本石町に新築移転しました。その時建てられた日本銀行本館は辰野金吾により設計されました。

建築中の日本銀行本館の記録写真(『日本銀行本館建築工事写真帖』、金融研究所アーカイブ蔵)により、建築の過程をご覧いただくとともに、映し出されている周囲の風景や、竣工後に作られた名所絵葉書の写真などから、明治・大正期の日本橋の様子や当時の貨幣などをご紹介します。

●建築記録写真(『日本銀行本館建築工事写真帖』より)



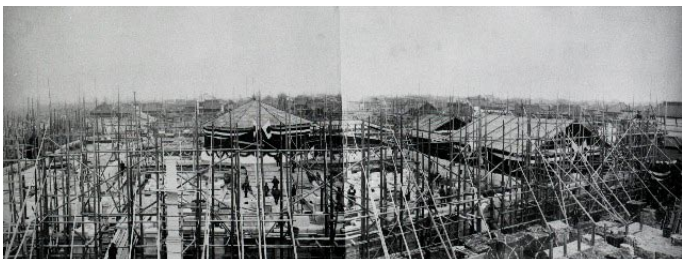
① 1890(明治23)年9月26日

日本橋の新店本館の工事は1890(明治23)年9月1日に地鎮祭を行い、着工しました。画面奥に為替バンク三井組の建物が見えます。



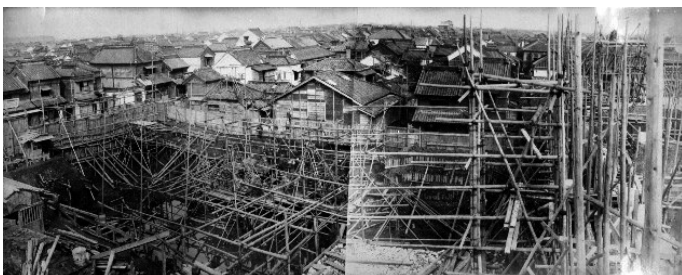
② 1891(明治24)年5月2日

基礎工事が完了し、地下階の工事に着手した時の写真です。画面奥が、本町一丁目の町並みです。左手には外堀の石垣が写っています。



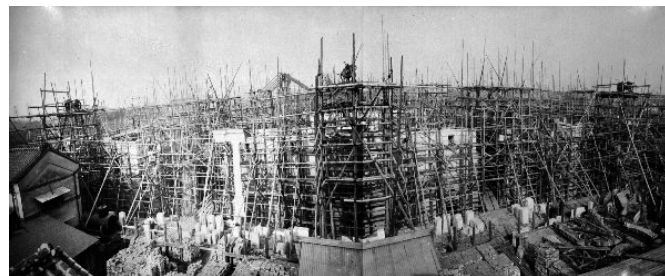
③ 1892(明治25)年3月10日

地下階の工事が完了し、基礎式の日の模様を撮影した写真です。当初1891年11月に基礎式を実施する予定でしたが、濃尾地震の被害が甚大であったため、延期されました。



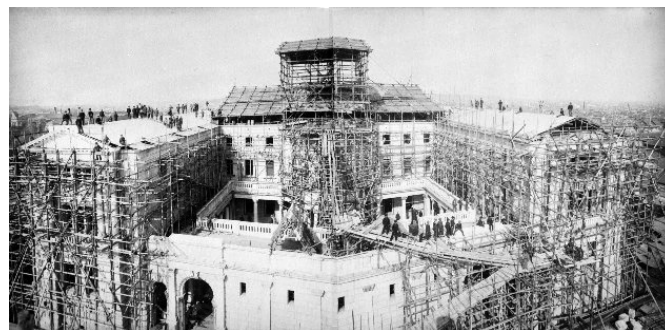
④ 1892(明治25)年10月30日

この年の8月23日に着工した本館北側の機械室の地下工事の写真です。機械室は本館・西分館の熱源機械室として本館工事に合わせて建てられました。奥には日本橋区の土蔵造りの町並みが広がっています。



⑤ 1893(明治26)年1月8日

1階部分の煉瓦および石積み工事の写真です。当初の計画では建物は、総石造りの建築が予定されていました。しかし、濃尾地震が発生したため計画を変更し、壁面内側は煉瓦積みにし、その外側を石造りの外観としました。



⑥ 1894(明治27)年12月5日

外壁の石積み工事が終了した後の写真です。当初の計画では同年中の落成を目指していましたが、日清戦争の影響により、工事は大幅に遅れることとなりました。



⑦ 1895(明治28)年8月14日

中央のドームや左右のガラス屋根の工事がほぼ終了した後の記録写真です。ロビーの天井は当初はガラスでしたが、関東大震災で焼失しました。現在は、コンクリートの屋根となっています。



⑧ 1896(明治29)年1月18日

本体工事がほぼ完成した時の記録写真です。1890(明治23)年に着工した本館建築は、1896年2月に完成し、3月22日に落成の記念祝賀会が行われました。日本銀行が永代橋の旧店舗から移転し、日本橋の新店で営業を開始したのは同年4月10日でした。

日本銀行建築と日本橋

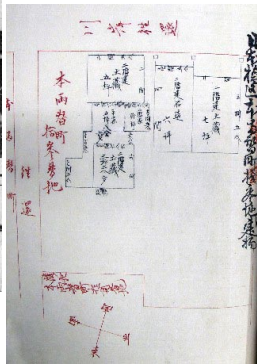
● にちぎん日本橋本店用地 — 金座跡地の取得 —

1882(明治15)年に永代橋の側に開業した日本銀行は、日本橋本店の建設のため、1885(明治18)年より用地取得にとりかかり、当時の日本橋区本町・本両替町の土地とそれに付属する家屋を三井組やその他の所有者から購入しました。



写真① <明治初期>

本店建築前の日本橋区本町・本両替町(現中央区日本橋本町)を常磐橋から撮影した写真です。土蔵造の家屋が見られます。



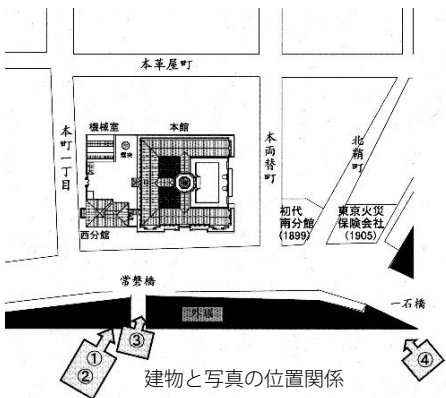
本店新築予定地(本両替町)の土地や建物の状況が図示されています。



写真② <大正～昭和初期>

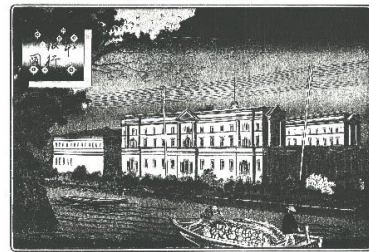


写真③ <現在>



建物と写真の位置関係

■ 日本橋区の一風景 — 江戸空間と東京空間 —



『東京名所 日本銀行之図』
1898(明治31)年

江戸の風景である外堀の石垣と水運、東京の風景である近代建築の日本銀行を一緒に取り込んだ構図で描かれています。

● 高橋是清日本橋区本革屋町住民となる — 日本銀行建築事務主任として採用 —

のちに日本銀行総裁となる高橋是清は、日本銀行本館工事が行われていた1892(明治25)年に「建築事務主任」として採用されました。同時に、日本銀行が追加取得した工事現場の隣の敷地(日本橋区本革屋町)にあった土蔵造りの空き家へ引っ越し、翌年西部支店長として赴任するまで日本橋区の住民となりました。

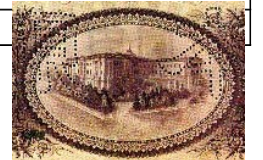
高橋是清 略年譜

事項	辰野金吾との関連等
1854年(安政元) 幕府御用絵師の子として誕生	辰野金吾、唐津藩で誕生
1871年(明治4) 唐津藩藩校『耐恒寮』英語教師となる	是清、辰野金吾や曾禰達三(後に迎賓館を設計)に英語を教える
1872年(明治5) 耐恒寮廃止のため上京	是清の後を追うように辰野や曾禰も上京。両名とも工部大学校に入学し建築の道を歩み始める。
1889(明治22) 銀鉱開発事業のためにベルーへ(事業は失敗、家産と名誉を失う)	(辰野金吾、日本銀行設計のため1888～欧米を視察)
1890(明治23) (9月 日本銀行本店着工)	(8月 辰野金吾 日本銀行本店建築工事監督に就任)
1892年(明治25) 建築中の日本銀行本館の建築事務主任として採用	是清、辰野金吾の下で働く
1893年(明治26) 本行2番目の支店として開設した西部支店の支店長に就任(～1895)	(この間、辰野金吾は日本銀行本支店の設計すべてに関与し、建築実務を統率)
1899年(明治32) 日本銀行副総裁に就任	
1911年(明治44) 日本銀行総裁に就任(～1913)	1912(大正元)年 日本銀行建築設計組織解散のため是清から辞令を辰野金吾に手渡す
1913年(大正2) 大蔵大臣に就任 (以降計6回蔵相に就任)	
1921年(大正10) 首相に就任	(1919年 辰野金吾、逝去)
1936年(昭和11) 2.26事件で暗殺される	



日本銀行券 B50 円券 肖像：高橋是清 (1951年発行)

建築事務主任として日本銀行に採用された高橋是清の年俸は1200円でした。翌年、西部支店長に任じられた時は、年俸2000円となりました。



日本銀行券 甲100円券裏面 (1900年発行)

日本銀行竣工後に発行された日本銀行券の図柄として日本銀行本館の建物が採用されました。

● 辰野金吾が関与した日本橋区の近代建築

日本橋区には日本銀行本館以外にも辰野金吾が携わった建築がありました。

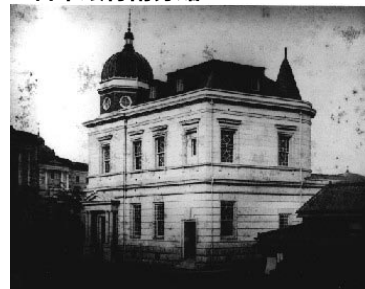


写真④

写真右から、東京火災保険会社(1905年竣工)・日本銀行南分館(初代、1899年竣工)・日本銀行本館(1896年竣工)。

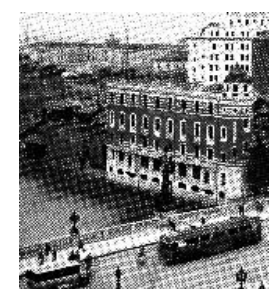
その他、日本橋区に建てられた辰野金吾が関与した建築としては、二代目の第一銀行(海運橋そば)や帝国製麻株式会社本社(日本橋そば)などがあります。

■ 日本銀行南分館 — 日本橋区本両替町・北鞘町 —



初代の南分館です。設計は辰野金吾と関野貞が関わりました。この土地は1896年に購入されました。

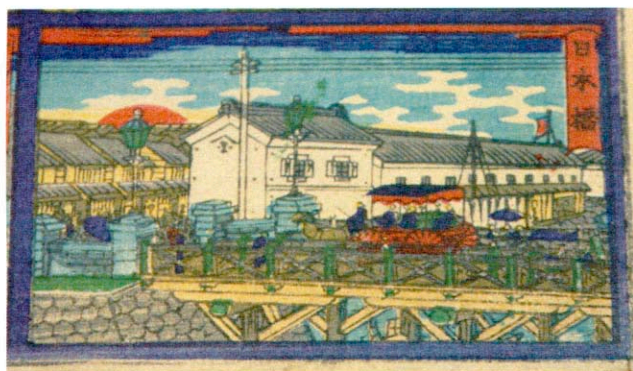
■ 帝国製麻株式会社本社 (1915年竣工)



日本橋そばにあった煉瓦造りのこの建物は昭和の終わりまで残っていました。

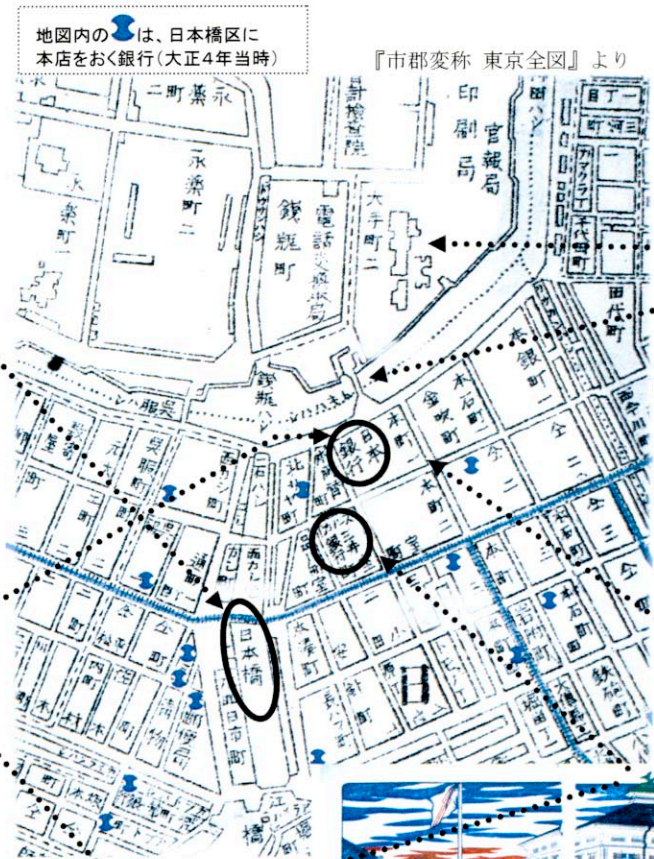
日本橋—明治30年頃—の中のちぎん ●日本銀行本館が建てられた頃の日本橋周辺には、明治初期の風景が残っていました。古地図と錦絵により、ご紹介いたします。

日本銀行が新しい本店の場所を選んだ日本橋区本両替町・本町（当時）は、江戸時代から金融に縁が深く、江戸時代に金貨の鑄造を行っていた「金座」が置かれていたほか、本両替町はその町名のとおり、両替商が軒を連ねていました。江戸時代から商業・交通の中心地であった日本橋は、明治期になると多くの金融機関が創設され、経済の中心地となっていきます。



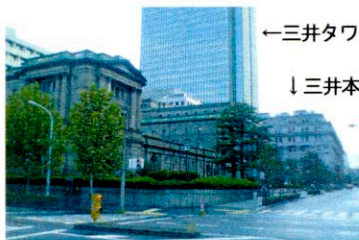
日本橋

明治30年頃の日本橋は、西洋式の木造桁橋（石材と木材が使われている和洋折衷形式）でした。1873（明治6）年に改架され、勾配は明治初期から登場した馬車や人力車が通りやすいよう、平面になっています。



日本銀行

1896（明治29）年の日本銀行本館落成式の様子です。近代西洋建築の代表格となる本館を中心に、右側には明治初期・和洋折衷建築の三井銀行、左側には常磐橋や本町の明治中期・土蔵造りの町並み、さらに川岸には江戸時代から続く水上交通が描かれ、時代の重なりを見ることができます。



←三井タワー
↓三井本館

現在の風景

日本銀行の右側には、三井タワー（2005<平成17>年竣工）や三井本館（1929<昭和4>年竣工）が見えます。



建築記録写真①に映る三井銀行



三井銀行

1876（明治9）年に創立された駿河町の三井銀行の建物は、3階建ての洋館の上に鯨を乗せ、瓦の屋根を用いるなど和風要素を取り入れており、周囲の和風建築の街並と調和していました。手前は越後屋呉服店（現在の日本橋三越）。



建築記録写真⑥に映る印刷局



印刷局

日本銀行から常磐橋を渡ると、大蔵省印刷局（当時）などの官庁街が広がっていました。1876（明治9）年に建てられた印刷局の2階建て赤レンガ造りの建物は、朝陽閣と呼ばれ、東京名所の一つとされました。往来には馬車が見えます。



建築記録写真④に映る土蔵造りの街並み

1881（明治14）年、火災予防のために「煉瓦・石造・土蔵造」のいずれかへ改造することを義務付ける条例が布達されたことが背景です。

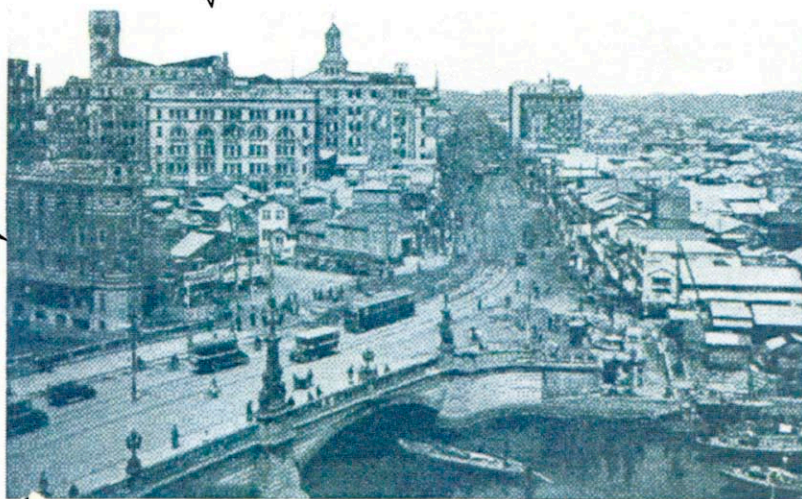
土蔵造りの町並みはこの後長くは続きません。1903（明治36）年に市区改正新設計（都市改造計画）が告示され、本格的な近代国家の街形成に向けた交通網の整備等が始まると、路面電車敷設に伴う道路拡張事業のために沿道の建物は順次移築・建替えが行われ、西洋風の色濃い町並みへと変化していきます。

日本橋

日本橋は、江戸時代から交通面では五街道の起点として発展してきました。周囲に巡らされた川や堀を通じた海への水路が整備され、各地からさまざまな商品が集まる一大商業地として栄えていました。

三越

帝国製麻株式会社



North part Main street (from Nihon Basu), Tokyo. 北町三越と日本橋本町 (所収東京史)

日本橋

<大正期>

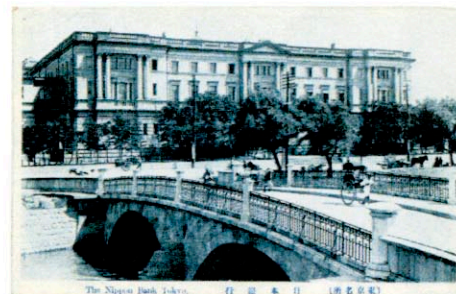
手前に日本橋、奥に三越の建物が見えます。人や電車、自動車、自転車、船などの行き交う様子がうかがえます。

〒103-0021

- ◆所在地 東京都中央区日本橋本町 1-3-1 (日本銀行分館内)
- ◆電話 03-3277-3037
- ◆インターネットへアクセス http://www.imes.boj.or.jp/cm/



<明治期> 一石橋方面からみた日本銀行・東京火災保険会社



<大正～昭和初期> 常盤橋からみた日本銀行



<大正期> 常盤橋方面からみた日本銀行

水上交通

日本橋周辺は江戸時代から川を中心とした交通が発達していました。渡船や乗合蒸気船は、電車や乗合自動車といった陸上交通の発達とともに次第に衰退しますが、明治・大正・昭和を通じて水上交通の重要な役割を果たしていました。



人力車

人力車は、1869 (明治2)年に日本橋区本銀町の居住者によって発明され、翌1870 (明治3)年から営業が開始されました。明治から大正時代にかけて非常に重要な移動手段となりました。

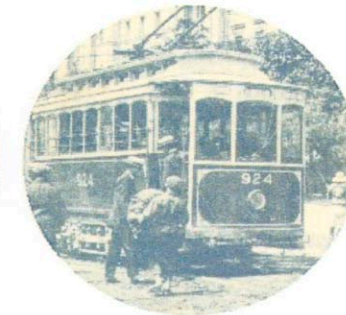
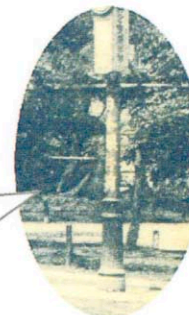


人力車の料金は、上野～本両替町間の賃金が11銭でした。また、雨天で2割増、雪や暴風雨では5割増などのように状況に応じて割増料金が取られました。

鉄道

日本橋地域の鉄道は、1882 (明治15)年に新橋～日本橋間の馬車鉄道の開通後、徐々に電化が進められました。1904 (明治37)年には、日本橋本町～浅草橋間が電化し、電車が主流になりました。乗車賃は、1903 (明治36)年11月に3銭均一、1906 (明治39)年8月には4銭均一でした。

絵葉書の右手前の電柱には、「日本銀行前」という停車場の名前が示されています。



日本銀行金融研究所

貨幣博物館